

OB会 だより



自宅の玄関前で大豆の収穫作業をする章夫さん。左はタネをまいて15年目に実ったゆず。右上は24羽飼育しているうこっけい。右下は自宅裏の畑で、会員でもある妻の久子さんと犬の空（クウ）。

定年後の人生・・・

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる

そのひとり 千野 章夫さん

小川町で農業に挑戦

気候に左右される露地物を作付けする土の状況は年々、日々変わる。タネの種類、まき時の状況等、様々なことを考えなければうまくいかないのが農業かな！

ほとんど農薬を使わないので虫食いの野菜になるが、畑にはいろんな虫がいる。アメリカシロヒトリ毛虫はどこから来るのか何でもよく食べるので、見つけるとつまんで殺す。

苦労が実を結ぶ瞬間の喜び、そしてまた今年、来年もず〜と続く挑戦。今から長期予報に気をとられるが自然はかわり、変えることはできない。政治はいつか必ず変えられる、それは根気よく耕し続けることで。退職後、お金のゆとりは無いが時間のゆとりができ、朝雨戸をあけると近くの山々が見え、四季により山々の色が変わり、鳥の鳴き声や虫の音を聞く。交通は不便だが自然の中で生きている、そんな幸せを感じている。

2013年 あけましておめでとうございます。

会員の皆様には新年をいかがお迎えでしょうか。

昨年12月に行われた衆議院選挙では、自民党が過半数を占め、自・公合わせて3分の2を超える結果になりました。消費税増税中止、原発即ゼロ、TPP反対、憲法9条を守れという多くの国民の要望とは乖離した政治体制が出現しました。

とりわけ「原発即ゼロ」の要望は、東電福島原発事故による放射性物質のホットスポットと言われている秩父地域で生活している私にとっては切実な課題です。秩父では、有志で「みんなの測定所 in 秩父」を設置しました。そこでの測定によると

◎横雨樋の放射能が10ヶ所で110.700ベクレル/kgから4,590ベクレル/kg

◎厚木シイタケが79ベクレル/kgから38ベクレル/kgという測定値が出ています。

(「放射能からみんなの健康といのちをまもる秩父の会」資料より)

人の特に子どもたちの内部被爆をいかに防ぐかが秩父における切実な課題です。

とにかく総選挙の結果は、私たちにとって厳しい生活が強いられる社会的、政治的状況が続くことが予想されます。しかし、希望を持って、退職者の会の絆を深めるとともに、会員の居住地におけるつながりも大事にして、新しい年を乗り越えていきましょう。

埼玉民医連退職者の会

会長 田代 健太郎



きずな訪問

石田道男さん を訪ねました

石田道男さんと言えば所沢では知らない人がいないというくらい地元で根ざった人です。

石田さんは昭和38年、富岡診療所(現埼玉西協同病院)の事務として入職。所沢医療生協設立の時には、伊藤淳先生と高橋旦さんから組織担当になってほしいと徹夜で説得されたことも。

49年地域組合員の強い要望で富岡診療所所有床化の建設工事が始まった。その時専務理事だった熊久保先生から「市議員になれ」といわれ立候補、共産党議員が6人当選するという快挙だった。所沢OB会再度の立ち上げにも参加してもらった。

“こんなこともしたんだ”

「民医連新聞」の全国編集委員として全国各地を取材して歩いたことも。東京の増岡敏和さんたちと一緒に。忙しかったが楽しくもあったよ♪♪と。

所沢市議と民医連の兼務は8年くらい続いた。



“一番の苦労は”

「富岡診療所の有床化の時だね。資材の値上がりで毎日毎日建設坪単価がハネ上がり、たいへんだったんだ」

“議員としては”

「医療の石田」「下水の石田」と言われた。第一級河川問題で、新所沢駅東口の下水問題を解決したのは有名な話。米軍基地問題にも取り組み、「基地の石田」とも言われた。今もなお、第3日曜日は航空公園駅前で「基地返還は市民の願い」「跡地利用は市民の手で」と訴え、チラシやパンフレットを作り配っている。

“民医連で学んだことは”

「患者の立場に立ってやる医療」「医療の専門家が社会保障の充実を求めること」を幾多の諸先輩、特に医師の方々から教えられたものが大きく、議員活動でいかされたね・・・」

文学や芸術を愛し、郷土史研究者として地域を訪ね歩いている。地域新聞への投稿では愛読者も多く、冊子も数多く出している。自宅にはいつもいろいろな方が訪れ、相談や話し合いの場になっている。奥さんとともに地域の人達からの信頼もあつく、頼りにされている。そのためか老いを忘れていくようです。石田さんは、「声と脚（足）が丈夫な限り、体の続く限り、何らかの活動にかかわっていきたい」と語ってくれました。

訪問者 山口昭子 岡部和子



五行歌 を 楽しんでます

巻田 幸子

皆さん 「五行歌」 ご存知ですか？

五行歌は、「五行で縦書き」というほかに一切の制約がない新しい詩歌です。

五行という型があるため、自由詩ではありませんが、短歌や俳句に見られる音数などの制限はなく、自由なリズムで思いを表現できることが特徴であり、一番の長所です。



私たちは、2年前から地域の皆さんと一緒に五行歌を楽しんでいます。10名ほどが集まり、和気あいあいの歌会は2か月に1度ですが、この日が来るのが楽しみです。2か月の間にそれぞれが2首考え、みんなで持ち寄り先生のご指導をいただきながら、完成させています。地域の文化祭に出展したりして思いを共有しています。

今回はOB会の仲間の作品を紹介します。

雨上がりのウォーキング
川辺のヤブカンゾウが
生き生き微笑んでる
暑さの中
良い日 一日のスタートだ
杉山和子

夫の炊いた赤飯
職場に届け
白衣と別れた
2012.6.15
恩師の訃報知る
水野岩子

炎天下
働く人の
身になれば
わが悩み
小さく見える
巻田幸子



国際祭りで アンデスの農婦は

やんや やんや の喝采？

新年おめでとうございます。

梅原 恭子

以前、お伝えしたことがあったかと思いますが、現在私は足立区で日本語を母語としていない方々を対象にした、日本語サークルにボランティアとして参加しています。

昨年11月3日に開かれた足立区主催の国際まつりの舞台に出演しました。

きっかけは、学習者の一人にペルー人の男性がおられ、今年はサークルのメンバーと一緒にペルーの歌と踊りを舞台でやりませんかとの提案があったのです。

国際祭りは公園を会場に、各国の食や文化交流を目的に足立区在住の外国人を中心としたお祭りです。実力はともかくノリの良さで生きている私はすぐその提案に大乗り気。しかも2期目の会長職という、会長特権を如何なく発揮し、出場を決定。衣装作りや、スペイン語の歌詞を覚えるために日曜日に皆を集めて特訓。

順調に準備が進んでいたのですが、私たちが被る麦わら帽子の調達が何ともうまくいきません。11月3日も近づいた10月末、この時期ではどこにも在庫がなく手作りもやむなしかと諦めていた矢先、近所ではありますが面識のない、おばさん二人組が、麦わら帽子を被って、自宅の植え木を剪定している場面に遭遇。後先考えずに、つかつかと近寄ってゆき「その帽子どこで手に入りましたか？」と。話はとんとん拍子に、そのおばさん達が被っていたのは勿論、自宅にストックしていた分まで自発的に供出させ何と必要な8人分の麦わら帽子をゲット。しかも新品も入っていました。勿論無料です。



(お礼に友人から贈られていた梨とリンゴはお持ちしましたが)

自分でも驚く手際です。看護師より詐欺師に近い資質を持っているのではと少し落ち込みつつ準備は万端。当日をむかえました。好天に恵まれ、観客は増え続け、しかも出場はトリというこれ以上ない条件。私たちがドスドスと（私以外はスマートなボランティアが多いのですが）アンデスの高地から背中にトウモロコシをしょって、市場におりてきたかのように舞台に出場。

簡単な繰り返しの多いスペイン語歌詞も特訓の成果は見られず、おぼつかなく辛うじて歌うも、踊りに気を払う余裕はなく、踊りと言うよりただあちこちに「移動」してただけという始末。それでも会場は大いに沸きやんややんやの喝采（と感じました）。

私個人としては、アンデスの農婦らしさは、断トツであったという評価に甘んじることなく芸の修業に励みたいと思っています。麦わら帽子はどうなったかですって？

返却は無用という事で、我が家の納戸に、次回出演オフアに備え待機中です。

来年もよろしくお願いします。

埼玉平和美術展に出展

岡部 和子



石巻にいる親戚が、被災時の様子・体験を神奈川まで講演に来たので聞きにいきました。

その時の映像を参考に、イメージを膨らませて3枚の習作に表現しました。

10F油彩「刻Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」です。会場では学生さんが針と文字盤のない時計の絵をカメラにおさめながら「印象的でいっぱいとりたい」と話していました。

早い復興と原発廃止を願っています。

昨年はめまぐるしい年でした。3月に母（96歳）が大腿骨の骨折で入院生活・リハビリ、現在は東村山の施設に入っています。4月に太極拳での河南省・開封で国際太極拳文化節に参加、10月パリにスケッチ旅行、11月娘が女兒を出産、孫まごしています。

いろいろなことがあります、絵は描き続けたいと思っています。

月1回をペースに 首相官邸行動に参加

早田 繁

「再稼働反対」「電気は足りてる」「いのちを守れ」「大飯はいらぬ」「大間もいらぬ」…… 延々と続くシュプレヒコール。首相官邸、国会議事堂前での行動です。



月に1回のペースで参加しています。同時進行でリレートークも進められています。全国各地から駆け付けた多彩な人たちが自らの体験に基いたり、行動する中で知り得た情報を発信しています。参加者の合言葉：原発を推進する議員は落選させよう！

OB会総会で購入した肥田先生の本3冊読みました。低線量内部被爆のペトカウ理論はもっと一般に普及するように願っています。福島の人たちが郷里に帰れる日は訪れるでしょうか。

退職者の会の旅行に はじめて参加

川内 正子

長野県・栄村
秋山郷の旅



10月24日から2泊3日、23人で紅葉の名所「長野県栄村・秋山郷」を訪ねた。第1日：日本3大奇峡谷の一つ、清津峡にいった。雄大な景観美を形成している粒上の岩（柱状節理という）に圧倒された。

その後、元栄村村長の高橋彦芳氏のお話を聞きました。栄村は約5か月間、雪におおわれている深雪地帯。自力では住宅の除雪が困難な方には、村が特別公務員を派遣する「雪害対策救助員制度」があります。また、住みたいところで住み続けられる「居住福祉」のため、居宅介護を住民が支援する「げたばきヘルパー制度」等、地域の実態に基づいた創造的な施策を実施しています。



経済的にみれば村財政を含めて循環型の地域経済を形成しています。隣の市のスーパーで買えば900円で買える酒も村の店のものを使うなどです。栄村を愛しているからこそ知恵を絞って実践されていると感じました。

2日目： 何年か前には豪雪のため孤立した秋山郷へ。切明温泉では川の中の温泉で足湯をしました。奥志賀スーパー林道からは岩管山頂に雪を見ました。前日時間がなくいけなかった山路智恵絵手紙館（これも絵手紙？と思うほど巨大な力作でした）と栄村国際絵手紙館を見学しました。帰り道、高橋まゆみ人形館に立ち寄り、ほのぼのとしたお人形さんに癒されました。



これも絵手紙？

3日目： 松川渓谷で滝の後ろにまわれる雷滝を見、須坂で豪商の館を見学、たくさんのお宝を見ました。昼食は日本で一番番売れている「おぎのや」さんの釜めしを食べ、一路帰路へ。

村の自然を満喫し、芸術にも触れ、高橋元村長の話で地方自治を考える等、また、参加者の交流と、実りの多い旅でした。皆様お世話様でした。

知性(?)と美意識(?) とともに満足の旅

浦川 恵子

秋晴れに映える紅葉の真ただ中を、メンバーを乗せたバスが進んでいきます。カーブを曲がるたびに、子供のように上がる歓声は小野さんばかりではありません。紅葉と栄村元村長さんの地方自治の原点に迫るお話と、知性(?)と美意識(?)共に満足の旅となりました。



高橋まゆみ人形館

OB会の良さは、気兼ねなく好きなことが話せること、リタイア後の暮らしぶりも興味しんしん。地域の人への気遣いや、医療生協でのいろいろ苦労しながらの活動、それぞれの世界が広がっています。

飯山では、予定になかった“高橋まゆみ人形館”に入館。ぜひ行きたかったのでさらに満足度がアップ。展示替え後に、また見にこようと思っています。

準備していただいた皆さん、ありがとうございました

「栄村」「秋山郷」の旅に参加して

藤田悦子

大井地区の支部祭りを終えほっとした時の2泊3日の旅は、私にとって最高のごほうびとバカンスでした。

一日目のメイン、 栄村元村長さんの話で「住みたい場所に住み続ける…居住福祉」と

いう信念に基づいた村政を貫いてこられた貴重な経験を聞かせていただき感銘しました。二日目の奥志賀高原から秋山郷にかけての紅葉は、まるで絵葉書の中にいるようでした。信濃路のどこを走っても白いススキに「ようこそ～」と迎えられ、途中で立ち寄った「足湯」「絵手紙館」「人形館」もよかったが、二夜をともに過ごした所沢の方々と現役時代の苦労話などできたことは「退職者の会」ならではの事と心に残った旅でした。

OB会の信州の旅

伊藤 英子

特に今回は所沢からバスが乗れるということで、朝7時過ぎに家を出ても充分間に合い助かりました。

一日目：栄村の元村長さんの話は、私のふるさと横手近くの沢内村の故深沢村長さんを思い出しました。沢内村は岩手県と秋田県を分ける奥羽山脈の豪雪地帯です。雪に閉込められ具合が悪くても医者に行けないお年寄り。幼児が高熱を出しても姑に遠慮して医者に行けない。乳幼児の高い死亡率を下げよう、老人が気兼ねなく病院に行けるよう

にと、当時、非常に苦勞して除雪車を入れ、バスを通し、保健婦を増員して乳幼児の健診や啓蒙活動で死亡率を0にし、老人医療費を日本で初めて無料にした深沢村長を、高橋元村長の話で思い出しました。庄巻は何と言っても2日目の紅葉、奥志賀高原から秋山郷へのバスは、フロント、左右の窓、後ろの窓からも真

っ盛りの紅葉に囲まれ、全方向がもみじ もみじもみじ・・・バスを降りて外に出てみると、真っ青な空に白い飛行機雲がどこまでも伸びていき、にぎやかな紅葉の中にすがすがしい風景が広がっていました。夜の交流会も二次会も楽しかったです。

三日間、快晴に恵まれたのも、紅葉がきれいだったのも、楽しかったのも、みんな みんな小野さんの“せい”です。



山口健司さん作



ぶらり東京



紅葉も楽しめる

東京って いいなあ・・・

西村 栄子

前日までの寒さはなく、小春日和の紅葉狩りの一日でした。原宿から、NHK スタジオパークへ、65歳以上は無料の入場料で全員が入りました。お昼のNHK番組「スタジオパーク」のスタジオを見たり、昔の大河ドラマの展示をみて懐かしがったりして、昼食。「清盛御膳」などのランチをいただいて、いざ神宮外苑の

イチョウ並木へ出発しました。近いと思ったら、30分も歩きやっと到着。めったに都会に出ないので、途中の「外苑通り」や「青山通り」の有名ブランド店でウインドウショッピングを楽しみたかったのですが、又の機会としました。

外苑のイチョウ並木は、ほぼ黄色に色づいていました。平日にもかかわらず、多くの見物客でにぎわっていました。沢山の写真を撮り、足をのばして新宿御苑まで行きました。今は紅葉、楓が美しく、ここでも立派なカメラをもった人が大勢いました。

代々木公園や新宿御苑、都会の真ん中で緑が沢山あり、紅葉も楽しめる東京って、いいなあと思いました。都知事選挙が告示された11月29日、13名の小旅行でした。



外苑のイチョウ並木



新宿御苑



新宿御苑

事業所訪問 . . .

「老人保健施設 さんとめ」

訪問者 山口昭子
伊藤幸男



年末に「老人保健施設さんとめ」を訪ね、宇田川事務長にお話を伺ってきました。

11年前に完成した老健さんとめは埼玉西協同病院のとなりにあります。“さんとめ”の名称は、三富（上富・中富・下富）開拓として歴史的にも有名な地であり、親しみやすいということで名づけられました。農村地域に大きな施設ができたことに、大きな驚きがあったことを思い出しました。

入ったすぐの部屋では、利用者さんたちがリハビリを真剣に、また楽しそうに取り組んでいました。現在、さんとめでは通所リハビリに力を入れているとの事です。OT（作業療法士）PT（理学療法士）FT（言語療法士）や他のスタッフを充実させ、70～80名の利用者さんにサービスを提供しています。最近では部屋も足りなくなり、4F会議室だったところも利用者さんでにぎわっていました。

また、さんとめを利用しながら、在宅生活が継続できるよう「在宅復帰型老健」にチャレンジし、在宅復帰率の向上をめざしていました。

経営は何とか黒字を保っていますが、介護を取り巻く社会的状況、独居や家族関係等か

ら特養待ちなど、社会的仕組みからくる問題も多く、老健の役割を超えて突きつけられる現実に苦勞しているとの事でした。平均在院日数も長くなる傾向にあります。

近隣にたくさんの老健もできましたが、さんとめは、ホッとする、スタッフがやさしい、費用が安いと評判のようです。



リハ機能加算、栄養ケアマネジメント加算、口腔機能加算を取得し、困難事例の受け入れ、認知症ケアの学習などにもスタッフ一丸となって取り組んでいました。大変ではあるけれどやりがいと誇りを持って楽しく頑張っている様子が伝わってきました。

さんとめでは増築を検討との事ですが、OB会の皆さんも、さんとめの利用や介護について相談がありましたらお電話をくださいとのことです。

さらば 前進座劇場よ

大久保 忠一

1982年10月に前進座劇場は劇団創立50周年記念事業として建設されました。

それは地元の文化行事など公的に役立つ500人劇場の建設計画を作り、土地が「第一種低層住宅専用地域」に指定されている関係上、劇場建設は都知事の「特別認可」が必要でしたが、都や武蔵野市、議会、商工会議所などの強い後押しでこの請願が認可されました。また、松本清張氏を代表とする全国的に「一億円募金」をめざす建設設募金委員会がつくられ、わずか1年足らずで当初目標をうわまわる一億九千万円が全国からよせられました。（私も四女かずこが1975年に入座、若手俳優として舞台に出ていたので、その家族として応分の募金に協力した）



それから3年後、熊谷でも組織的に座を応援しようと、戎居二平治、井上久、大津栄一ら諸氏の呼びかけで、前進座熊谷後援会（のちに友の会と改称）が会員80余名で発足しました。会の年中心行事として、年2回（5月国立劇場・10月前進座劇場）の観劇バスツアーを中心に活動してきました。

今年30周年を迎えたその劇場が、皮肉にも一昨年の東日本大震災の影響で取り壊されることになり、最後の1月公演「三人吉三巴白浪」を熊谷からバス1台、OB会の皆さん達と共に感慨深く見てきました。

この稿を書き終えた後NHKで、消える「理想の劇場」のタイトルで閉館を惜しむ多くのファンの声も入れて前進座閉館の場面が流れていた。感慨一入。



皆さん

ご支援ありがとうございました

青柳 伸二

衆議院選挙では「埼玉 1 区」候補者としてはじめて国政選挙を戦いました。OB会のみなさんからたくさんのご支援をいただきありがとうございました。

暮れの寒い時期でしたが、各地をまわってあたたかい励ましと元気をたくさんもらいながらの選挙戦でした。

夜間、駅前で演説をしていると、一人の男性が近寄ってきて「私は年金で生活しているが、どうにもやっていけない。タクシーの運転手をして不足分を補っている。年金も減らされるし、消費税も引き上げられる。共産党には本当に頑張ってもらいたい」と言ってホカロンとカンパを差し出されました。厳しい生活とこれからの不安は、若い人もお年寄りもみんな同じだということを感じています。皆さんからいただいたご支援に感謝しながら、引き続き頑張ります。



日本高齢者大会に参加して

佐藤 良子

「第 26 回日本高齢者大会」は昨年 10 月、香川県で「考えよういのちと暮らし、憲法を守る国づくり！まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう～」をテーマに開催されました。四国は 18 年ぶりの開催、全国から延べ 5000 人が参加しました。

私は、シンポジウム「ひとりぼっちをなくす高齢期運動の課題」の分科会に出ました。高知医療生協では、「県知事との協定ですすめる地域ぐるみの見守り活動」に取り組んでいます。医療生協の機関紙を、声をかけながらの配布を毎月やり、組合員から待たれている関係ができた報告がありました。その他、友の会を作って社協からお金が出るようになったなど知恵をいかした報告がたくさんありました。

2 日目の記念講演は、講師・田辺鶴瑛さんによる「ふまじめ介護 かく語りき」というテーマでご自身の介護経験を講談・講演・DVDなどを使いながら語られました。

実母と義母の介護は、不平不満の感謝知らずの自分中心の介護でした。3 度目の義父は認知症で暴言を吐き、威張り放題、大嫌いでした。真夜中に起こされ「バカー」と怒鳴られ、思わず手をあげてしまい落ち込んだことも。ある和尚さんに相談したら「誰でもあなたの立場になったら手をあげる、それでいいんだよ」と言われ、それからは「バカー」といわれると「バカに介護されるお前は何だ」「大バカだ」真夜中「助けてくれー」と言われ「助けにきたぞジジイ」



大会旗は次期開催地の三重県に

「オオ助かった」おかしくなって大笑い。家族に話すと家族も大笑い。お爺ちゃんが笑いを提供してくれる存在になったので、気持ちが軽くなり、介護も楽になり、大嫌いだった爺ちゃんが最愛の人になりました。そんなお爺ちゃんを早稲田の応援歌あの世に送ったというお話でしたが、私は今を自分らしく楽しく生きることを学びました。



気軽に
私の一枚

小野 敏

長野県・別所温泉には、国宝八角三重塔がある安楽寺をはじめ、重要文化財などの歴史的建造物がある。

安楽寺に向かう途中、山本宣冶の記念碑に遭遇した。山宣は皆さんご存知の労農

党代議士。1923年3月、上田で開かれた農民組合総会で講演。そのわずか4日後、右翼に虐殺されたが、この時が山宣最後の演説となった。山宣を別所温泉に招いたタカク・テルの記念碑は隣に並べて設立されている。埼玉民医連退職者の会で一度訪問したい別所温泉です。



大富豪の婦人たち」
富田 厚子

ハヶ岳にある平山郁夫シルクロード美術館を訪ねました。その時の一枚です。



憧れのドロミテ街道とイタリア湖水地方をめぐる旅に行った。雪と黄葉、イタリア側からみるモンブランの美しさは言葉にならない。“ワアー”“すごい！！”の連発・・・
残念なのはマッターホルンの頂上が見れなかったこと。でも長年の夢がかなった。

松倉 徳子

行ってきました！

「青春18きっぷで雪見絶景、只見線の旅」

1月7日（月）の朝8時に大宮駅に集合し、宇都宮線、東北線、磐越西線、只見線と乗りつぎ、7時間弱かかって会津川口駅で下車。この先、新潟に抜ける線路は昨年夏の豪雨により今だ不通となっている。快晴のもと、会津川口駅のホームから見た山の雪景色は素晴らしかった。

再び乗ってきた電車で何駅かもどって会津宮下駅で下車し、「ふるさと荘」に宿泊。宿の温泉は熱めの私好みの湯。夕食に出た馬刺しはおいしかった。カラオケはなかったけど、その分話しもはずんでいました。



車窓からの雪景色。遠くに見えるのが会津磐梯山。



会津川口駅のホームで只見線と。
左上は550円の「中華そば」。
左下は立ち寄った造り酒屋。



上は「ふるさと荘」食堂での乾杯の場面。
下は「ふるさと荘」の夜景。



夕食後はまたいつもの様に1部屋に集まり、いろいろ日頃のことを10時頃まで語り合う。特に今回は、直前の選挙のことが話題となりました。

2日目は一転して朝は小雪。晴れと雪の2つの天気が味わえた。喜多方で下車して昼食。ここではなんとといってもラーメンです。「上海」という老舗の2階で「中華そば」を食べた。おなかがすいていたこともあったが、あっと言う間に食べてしまった。食後は造り酒屋をまわって試飲したり、お土産を買うなどして2時近くに喜多方を立ち、7時前に大宮駅に到着。「また来年度も行きたいね」と話しあって別れる。2日間のいい旅でした。【金子記】

【 ホームページもご覧ください 】

埼玉民医連退職者の会

検索